

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

共同研究専門委員会よりお知らせ

共同利用は大学共同利用機関である分子科学研究所にとって基幹的なアクティビティである。この研究所の柱とも言うべき共同利用は、昨今のコロナ禍において遅滞を余儀なくされてきたが、2023年には漸くコロナ禍も一定の落ち着きを見せ、従前のような対面式の研究会や協力研究が可能となった。コロナ禍の3年間（2020-2022年度）においても、共同利用を提供する我々分子研サイドとしては決して歩みを止めずUVSORにおける汎用性のある先端利用、先端的顕微分析手法の共同利用提供、また結晶スポンジ法による分子構造解析などの世界的にも優位性のある共同利用を展開してきた。またクロスアポイント教員が先導する共同利用の新展開も着実に実りつつある。2022年度まで実施してきたナノテクプラットフォーム事業は2022年度よりマテリアル先端リサーチインフラ事業（Advanced Research Infrastructure for Materials and Nanotechnology：略称ARIM）へと刷新され、継続的に発展しつつある。コロナ禍においてはon-webによる研究会実施のプラットフォームの提供も定着し、新たな研究会や情報交換のスタイルが定着した。

しかしながら2023年度にはポスト・コロナ、ウィズ・コロナの生活の形が見えてきたにも関わらず、残念ながら共同利用件数が、その中心的アクティビティである協力研究、研究会ともに減少している。これは昨年度までにリモートでの共同研究や研究集会を実施することが定着しon-site型の共同利用が第一選択肢にならなくなっていることを示しているのかもしれない。また近年の卓越大学院プログラムや国立大学法人の統合、地域的な大きな枠組みでの大学間連携の推進など、大学での研究を取り巻く環境は大きな転換点に来ている。大学共同利用は分子科学研究所の生命線の一つであることから、どのような形態の共同利用が望まれ、利用しやすいのかなどを見直し、独自性ある有効な共同利用のあり方を目指したい。

共同利用研究の実施状況（採択件数）について

種 別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (12月7日現在)
課題研究	2	4	2	2	2	4	1
協力研究	73	45	37	53	47	47	33
協力研究（マテリアル） <sup>(注3)</sup>	64	81	69	44	66	38	28
協力研究 （NMRプラットフォーム） <sup>(注4)</sup>	-	-	-	-	3	0	0
分子研研究会	9	10	7	4	4	5	6
若手研究活動支援	2	1	2	1	2	1	0
岡崎コンファレンス	0	1	2	0	0	0	0
計	150	142	119	104	124	95	68

(注1) 課題研究・協力研究の通年課題は前期と後期の2期分として、1課題を2として年度計に表す。

(注2) 新型コロナウイルスの影響により研究期間を延長した前期課題は後期の件数に計上しない。

(注3) 2021年度まで「協力研究（ナノテクノロジープラットフォーム）」の件数、2022年度以降は「協力研究（マテリアル先端リサーチインフラ）」の件数。

(注4) 協力研究（NMRプラットフォーム）は2021年7月1日から2022年3月31日まで実施。

分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2023年6月14日～15日	化学・工学・環境学を例とした持続可能な社会のための産学官民連携のあり方	所 千晴（早稲田大学理工学術院／東京大学大学院工学系研究科）	49名
2023年7月29日～30日	明日の放射光光電子分光研究展開のシーズとニーズ	松井 文彦（分子科学研究所 極端紫外光研究施設）	61名
2023年8月31日	森野ディスカッション	宗像 利明（公益信託分子科学奨励森野基金）	128名
2023年9月13日～14日	イオン液体インフォマティクスの発展にむけて	北田 敦（東京大学）	37名
2023年9月29日	UVSOR-Spring8 赤外ビームライン合同ユーザーズミーティング	田中 清尚（分子科学研究所 極端紫外光研究施設）	63名
2023年10月2日～4日	溶液の化学現象の軟X線分光測定の前線	長坂 将成（分子科学研究所 光分子科学研究領域）	60名